

ハードディスク・SSDコピーソフトウェア

ファイナル ハードディスク/SSD入れ替え

V.16

ユーザーズマニュアル Windows10対応版



商標・著作権

ファイナルハードディスク入れ替えはAOSデータ株式会社の日本における商標です。

Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。

その他の社名、ブランド名及び製品名は、各所有者の商標または登録商標です。

本ソフトウェア（本ソフトウェアに組み込まれたイメージ、写真、アニメーション、ビデオ、音声、音楽、テキスト、アプレット、その他を含む）、付属のマニュアルなどの文書、および本ソフトウェアの複製物についての著作権は、AOSデータ株式会社またはその認定サプライヤーが有するもので本ソフトウェアは著作権法および国際条約の規定によって保護されています。本ソフトウェアのソースコードプログラムの著作権は、Challenger Backup Solutions, LLCが所有します。

『ファイナルハードディスク入れ替え』の日本語版開発・販売はAOSデータ株式会社です。

AOSデータ株式会社

東京都港区虎ノ門5-1-5 メトロシティ神谷町4F

ホームページ： <http://www.finaldata.jp/>

Eメール： irekae@aos.com

はじめに

このたびは、「ファイナルハードディスク入れ替え（以下、「本ソフトウェア」）をご購入くださいます、誠にありがとうございます。

本ソフトウェアは、システムドライブを新しいハードディスクに簡単に移行したり、ディザスタリカバリ（障害復旧）のためにバックアップを行なえるように開発された製品です。

本ソフトウェアは、使用許諾の合意書に基づいて提供されるもので、合意書の条項に従う場合のみ使用することができます。本ソフトウェアには、コンピュータソフトウェア、およびそれに関連した媒体、ならびに印刷物（マニュアルなどの文書）、「オンライン」または電子文書が含まれることもあります。

本書に記載された内容は情報の提供のみを目的としており、予告なしに変更されることがあります。

本ソフトウェアの特長

本ソフトウェアを使用すると、オペレーティングシステム(以下、「OS」)、アプリケーション、およびユーザーデータのあるハードディスクを、他のハードディスクにすばやく簡単にコピーできます。そのコピー先のハードディスクを今までのハードディスクと交換すれば、今までどおり、新しいハードディスクからOSを起動できます。

- システムディスク (現在の起動ディスク) を別のハードディスクに丸ごとコピーできます。これにより、現在のシステムディスクをより大きなサイズのハードディスクに交換することができます。
- システムディスクの起動可能なバックアップを作成できます。これにより、ハードディスクがコンピュータウイルスによって障害を受けたり、物理的に破損してしまった場合などに、破損したハードディスクを本ソフトウェアでコピー (バックアップ) したハードディスクに入れ替えることで、ディザスタリカバリ (障害復旧) に用いることができます。
- 現在のディスクの整合性を保ちながら、隠しパーティション (リカバリ用パーティションや診断用パーティション) も含めたシステムディスク全体をコピーできます。
- 現在使用しているハードディスクよりも容量の小さいハードディスクやSSDへコピーすることができます。
- 本ソフトウェアは、パソコンにインストールする必要はありません。
- USBメモリから、本ソフトウェアのWindows Preinstallation Environment版(以下、「Windows PE版」)を起動してコピーを実行できます。
 - ※ Windows版が正しく実行されなかった (正しくコピーされなかった) 場合に使用します。
 - ※ Windows PE版起動用のUSBメモリは、ご自身で作成していただく必要があります。

本書の構成と読みかた

本書は、次のように構成されています。

▶ 準備

本ソフトウェアを使用するために必要な環境や、ご使用にあたっての制限事項などが記載されています。

本ソフトウェアをご使用になる前に必ずお読みください。

▶ 実行

ユーザーの環境に応じたコピー処理の流れと、本ソフトウェアの操作方法が記載されています。操作方法は、Windowsが動作しているパソコンでコピーする場合（Windows版）、Windowsが動作していないパソコンでコピーする場合（Windows PE版）の2つに分けて記載されています。

ユーザーの環境に応じて、必要なページをお読みください。

▶ 付録

各種の資料などが記載されています。

必要に応じてお読みください。

目次

はじめに	1
本ソフトウェアの特長	2
本書の構成と読みかた	3
準備	6
必要なシステム	6
対応／非対応ハードディスクとパソコン	7
対応ハードディスク	7
対応パソコン	8
非対応ハードディスクおよびパソコン本体	8
作業を始める前に	9
Step 1 パソコンを確認する	9
Step 2 実行前に確認する	10
Step 3 パソコンを準備する	10
Step 4 実行時の注意事項	11
Step 5 Windows PE版を使用する場合の制限事項	12
実行	13
ハードディスク入れ替え作業の概要	13
▶ ノートパソコンの場合	13
▶ デスクトップパソコンの場合	14
本ソフトウェアの使い分けかた	16
ハードディスクのコピー作業の流れ	17
Windows版を起動する	18
▶ Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は	20
Windows PE版を起動する	22
起動用USBメモリを作成する	24
▶ 起動用USBメモリの作成手順	24
コピー元/コピー先ハードディスクを指定する	29
▶ Windows版でドライブを指定するときは	29

- ▶Windows PE版でドライブを指定するときは 31
- 除外するファイルやフォルダーを指定する 32
- パーティションを変更する 34
 - ▶パーティションサイズを変更するときは 35
 - ▶パーティションを削除するときは 36
 - ▶新しいパーティションを作成するときは 36
- BitLockerを設定する 38
 - ▶Windows 8/8.1 Pro、およびWindows 10 Proの場合 38
 - ▶Windows 7 Enterprise/Ultimateの場合 40
- コピーを実行する 41
- 新しいハードディスクから起動する 44
 - BitLockerによるドライブ暗号化を有効にした場合 44
 - ▶Windows 8/8.1/10 44
 - ▶Windows 7 46

付 録 49

- Advanced formatについて 49
 - ▶Advanced Formatとは 49
 - ▶Windows XPでの問題点 49
 - ▶Advanced Formatの識別方法 50
- GUID パーティションテーブル(GPT)について 53
 - ▶GUIDパーティションテーブル(GPT)とは 53
 - ▶GPT ディスクの起動 53
- うまくいかないときは 54
- 本製品の使用について 58
- 索引 61
- 技術サポート情報 62
 - ▶よくある質問と回答集 62
 - ▶オンラインユーザー登録 62
 - ▶アップデートプログラム 62
 - ▶技術サポート 63

準備

必要なシステム

本ソフトウェアを使用するためには、以下のシステムが必要になります。

パソコン本体 およびOS	<ul style="list-style-type: none">●PC/AT 互換機●日本語版 Windows 7、Windows 8 / 8.1、およびWindows 10 (32bit / 64bit 版対応)
メモリ	<ul style="list-style-type: none">●上記OSが正常に動作し、かつ256MB以上(1GB以上推奨)●Windows PE版を使用する場合は、768MB以上(1GB以上推奨)
ハードディスク	<ul style="list-style-type: none">●80MB以上の空き容量(プログラム展開用)●下記Microsoft .NET Framework 4のインストールに、別途100MBの空き容量が必要になります。 ※既にインストール済みの場合は不要です●Windows PE版起動用USBメモリを作成するには、起動用のイメージを展開するために、ハードディスクに約1GB以上の空き容量が必要になります。●Windows ADKを用いてWindows PE版起動用USBメモリを作成する場合は、Windows ADKのインストールのために、ハードディスクに約5GB以上の空き容量が必要になります
ディスプレイ	<ul style="list-style-type: none">●解像度:1024×768(XGA)以上●色数:256色以上
その他の ソフトウェア	<ul style="list-style-type: none">●Microsoft .NET Framework 4 (自動的にダウンロードされます。ダウンロードにはインターネット接続が必要になります。)●Windows ADK (必要な時にダウンロードされます。ダウンロードにはインターネット接続が必要になります。)

対応／非対応ハードディスクとパソコン

本ソフトウェアが対応しているハードディスク・パソコンと対応していないハードディスク・パソコンは次のとおりです。

対応ハードディスク

本ソフトウェアは、以下のインタフェースを持つハードディスクおよびディスクの種類に対応しています。

インタフェース	IDE、SATA、eSATA、USB、IEEE 1394 (iLink、Firewire)、SCSI、PCMCIA
ディスクの種類	<ul style="list-style-type: none"> ●ハードウェアRAID ●GUIDパーティションテーブル(GPT)対応 ●Solid State Drive(以下、「SSD」) ●Advanced Format (1セクターあたり4096バイトのサイズを持つハードディスク)に対応



・本書では、「ハードディスク」と「SSD」をまとめて「ハードディスク」と呼びます。



新しいハードディスクを選ぶときは

新しいハードディスク/SSDは、筐体サイズ(3.5インチ/2.5インチなど)とインタフェース(パラレルATA/シリアルATAなど)で選択します。

また、主なハードディスク/SSDメーカーのWebサイトには、パソコンのモデルに対応した製品を検索できるWebページが用意されていますので参考にしてください。

《例》

- ・バッファロー：<http://buffalo.jp/search/pc/>
- ・I/Oデータ：<http://www.iodata.jp/pio/>

対応パソコン

- WindowsのみがインストールされているPC/AT互換機
- BIOS/UEFI対応
- Secure Boot対応

非対応ハードディスクおよびパソコン本体

次のハードディスクまたはパソコン本体では、本ソフトウェアは使用できません。

- ダイナミックディスク
- ソフトウェアRAID
- マルチ(デュアル)ブート環境
- WindowsがC:ドライブ以外にインストールされているハードディスク
- Windows標準以外のブートローダを使用しているハードディスク
- HPA(Hidden Protected Area)が含まれているハードディスク
- Advanced Format以外の512バイトでないセクターサイズ(ハードディスクツールを使用したカスタムセクターサイズ、ネイティブ4Kセクター等)
- ディスク全体が暗号化されているハードディスク(BitLockerを除く)
- 東芝製パソコンのうち、「東芝RAID」または「東芝ハードディスクプロテクション」を搭載した機種
- Macintosh(Mac)
- 本体からハードディスクを脱着できないパソコン(タブレットやUltrabook等)

作業を始める前に

Step 1 パソコンを確認する

本ソフトウェアのご使用には次の制限があります。ご使用前にご確認ください。

- ハードディスク/SSDが交換できる機種がサポートされます。タブレット端末やウルトラブックなど、内蔵ハードディスク/SSDの取り外しが不可能なパソコンには対応しません。
- 現在のシステムディスクと異なるデバイスインターフェースを持つハードディスク（例：IDEからSATAなど）への入れ替えは推奨されません。コピー先のハードディスクで起動しない可能性があります。
- 一部の古いパソコンでは、大容量のハードディスクを認識できない場合があります。大容量のハードディスクに交換する場合は、お使いのパソコンが対応していることを確認してください。特に137GB未満のハードディスクをより大きなハードディスクに交換する際は注意してください。
- GPTディスクの変換は行いません。非GPTディスクのコピーを行うと、コピー先があらかじめGPTでフォーマットされていても、コピー後は非GPTディスクとなります。そのため2TBを超えるハードディスクへコピーする際は、非GPTディスクの限度である2TBまで認識されるようになります。コピー元がGPTディスク場合は、コピー先ディスクもそのままGPTディスクとなりますので、2TB以上を認識可能です。
- Windowsを起動せずに、ハードディスク内のパーティションの一部を使用してビデオなどの再生を行う機能を持つパソコンは、コピーした新しいハードディスクでその機能を使用できなくなります（例：DELL製パソコンの「Media Direct」）。
- リカバリパーティションもコピーされますが、パソコンによってはコピー先ハードディスクで正しくリカバリできない場合があります。ディスクを入れ替える前に、リカバリーディスクを作成しておく安全です。リカバリーディスクの作成方法

は、パソコンのマニュアルをご確認ください。

- Windows PE 版起動用 USB メモリを作成するために、Windows ADK のインストールが必要になることがあります。その場合、ハードディスクに約 5GB 以上の空き容量が必要になります。
- コピー先のハードディスクの容量が小さく、C ドライブにコピーするデータのほかに十分な空き容量を確保できない場合、C ドライブより後方のパーティションがコピーされないことがあります。
- Windows 10 のタブレットモードでの操作はサポートされません。タブレットモードをオフにしてご使用ください。

Step 2 実行前に確認する

本ソフトウェアの実行前に、次の事項をご確認ください。

- パソコンによっては、内蔵のハードディスクを付け替えるとメーカー保証を受けることができなくなる場合があります。ハードディスクの入れ替えは、お客様の責任のもとで行ってください。
- 本ソフトウェアの使用には、ローカルの管理者権限 (Administrator) が必要です。
- 本ソフトウェアはシステムディスクのコピーを行いますので、コピー先ハードディスクとして別に内蔵可能なハードディスクが必要です。

Step 3 パソコンを準備する

本ソフトウェアを実行する前に、次の作業を行ってください。

- コピー元ハードディスクに不良セクターがあると、正常にコピーができない場合があります。Windows の「チェックディスク」などを実行して、システムディスク (コピー元) を正常な状態にしてください。
- Windows Update によって自動的にパソコンが再起動されることを防ぐため、コピー開始前に Windows Update を実行して最新の状態にしてください。ま

た、アップデート完了後、インターネット接続を切断してください。

- コピー処理中に省電力モードに移行しないように、省電力設定をオフにしてください。
- 暗号化されているファイルは、復号化してください。暗号化されたファイルは正しくコピーできないか、コピーできても新しいハードディスクでは開けなくなります。
- セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなど、タスクトレイに常駐しているソフトウェアを一時的に終了させてください。
実行中のソフトウェアがあると、一部のファイルがコピーされず、コピー先ハードディスクから起動できなくなることがあります。終了方法については、各ソフトウェアのマニュアルやドキュメントをご覧ください。
なお、たとえばシマンテック社のノートン・インターネットセキュリティなどのセキュリティソフトをご利用の場合、一時停止しても関連プログラムが動作し続け、ファイルのコピーが妨げられる場合があります。その場合には、Windows PE版を使用してください。

Step 4 実行時の注意事項

本ソフトウェアの実行時には次の事柄にご注意ください。

- コピー作業中に周辺機器を接続 / 取り外ししないでください。
- Windows 上で認識できないパーティションおよびドライブ文字のないパーティションは、セクター単位でコピーされます。このため、通常のパーティションに比べて時間がかかります。
- Windows 上で認識できないパーティションおよびドライブ文字のないパーティションのパーティションサイズを変更してコピーすることはできません。
- FAT16 および FAT32 のパーティションは、サイズを拡張してコピーすることはできません。
- コピー元ハードディスクに拡張パーティションが含まれている場合、5つ以上のパーティションを作成できないことがあります。

Step 5 Windows PE版を使用する場合の制限事項

Windows PE版を使用するときには、次の点にご注意ください。

- Windows PE版は、起動してから72時間後に、予告なく再起動されます。起動時間にご注意ください。
- Windows PE版は、メモリが768MB以下のパソコンでは正しく実行できません。その場合、メモリを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
- パソコンのBIOSがUSB起動(USBboot)に設定されていないとUSBメモリから起動ができません。BIOSの設定で、USBメモリから起動できるように設定してあることをご確認ください。BIOSの設定を確認・変更する方法は、パソコンの取扱説明書やパソコンメーカーのサポートにお問い合わせください。
- BIOSの設定で省電力モードが有効になっている場合、コピー中に画面表示が省電力モードで暗くなったり、ハードディスクが停まったりすることがあります。あらかじめ省電力モードを無効の設定にしてから作業を開始してください。
- Windows PE版では、USB 3.0端子を使用できないことがあります。その場合は、新しいハードディスクやマウスなどは、USB 2.0端子に接続してください。
- Windows PE版では、32GBに満たないハードディスクを認識できません。32GB未満のハードディスクをコピー元/コピー先としてご利用になる場合は、Windows版をご使用ください。

実行

ハードディスク入れ替え作業の概要

ハードディスクの入れ替え作業の概要を示します。

▶ノートパソコンの場合

1



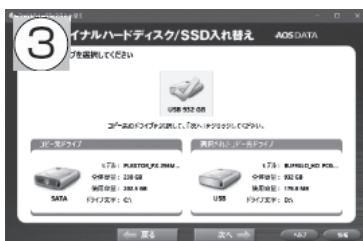
新しいハードディスクを外付け用ハードディスクケースに取り付けます。

2



USBケーブルでパソコンに接続します

3



本ソフトウェアで、現在のシステムディスク（コピー元ハードディスク）の内容を新しいハードディスク（コピー先ハードディスク）にコピーします。

4



パソコンの電源をオフにし、古いハードディスクを取り外し、新しいハードディスクを古いハードディスクと同じ場所に取り付けます。



- 外付けハードディスクケースおよびUSBケーブルは、市販品を利用してください。USBバスパワー駆動（USBケーブルのみで動作するもの）の機器は電力が不足する可能性があるため、ACアダプターを用いて駆動するものを推奨します。

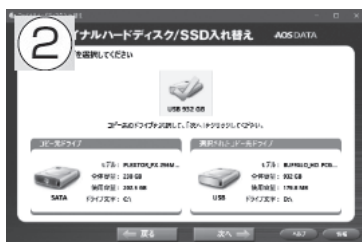
▶デスクトップパソコンの場合

1



パソコン本体のカバーを外し、マザーボードからのケーブルに新しいハードディスクを接続します。

2



本ソフトウェアで、現在のシステムディスク（コピー元ハードディスク）の内容を新しいハードディスク（コピー先ハードディスク）にコピーします。

3



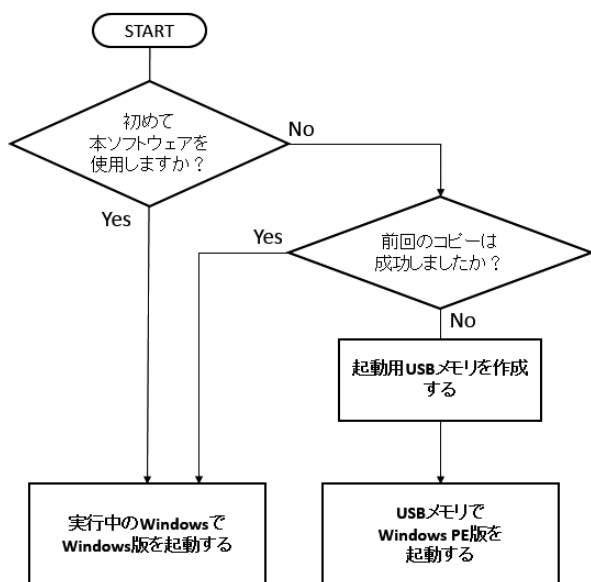
パソコンの電源をオフにし、古いハードディスクを取り外し、新しいハードディスクを古いハードディスクと同じ場所に取り付けます。



- デスクトップパソコンでも、ノートパソコンの場合と同様に、USB インタフェースで接続してコピーすることもできます。
- ハードディスクを IDE または SCSI で接続している場合、マスター/スレーブのジャンパーピンの変更が必要な場合があります。
新しいハードディスクを“スレーブ”として接続してコピーした場合、新しいハードディスクでパソコンを起動する際には、必ずジャンパーピンを“マスター”に変更してください。ジャンパーピンの設定方法は、通常、ハードディスク本体または取扱説明書に記載されています。不明な場合は、ベンダーにお尋ねください。

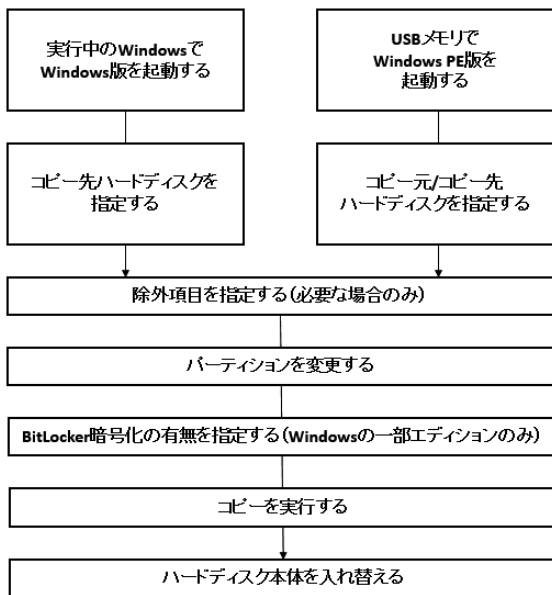
本ソフトウェアの使い分けかた

本ソフトウェアには、Windows版とWindows PE版があります。Windows版は、現在実行されているWindowsの下で実行されます。また、Windows PE版は、Windows PE版 起動用USBメモリから起動されたWindows PEの下で実行されます。これは、Windows版が正しく実行されなかった(正しくコピーされなかった)場合に使用します。



ハードディスクのコピー作業の流れ

本ソフトウェアによるシステムディスクのコピー作業の流れを示します。



- Windows版では、自動的に適切なハードディスクが選択されますので、ほとんどの場合、コピー先ハードディスクの選択は不要です。コピー元ハードディスクは変更できません。

Windows 版を起動する

本ソフトウェアのWindows版は、次の手順で起動します。



- 作業を始める前に、必ず「作業を始める前に」(9ページ)に記載されている事項を確認してください。
- コピー処理に使用しないハードディスクやリムーバブルディスクは、取り外しておくことをお勧めします。
- コピー先ハードディスクを内蔵デバイスインタフェースに接続する場合は、パソコンの起動前に接続してください。
- コピー先ハードディスクをホットプラグ対応デバイスインタフェース(USB、IEEE1394、eSATA、PCMCIA)に接続する場合は、Windowsへのログイン後に接続してください。

1 Windowsを起動します。

2 管理者権限のあるユーザーでログインします。

3 ダウンロードしたZIPファイルを解凍したフォルダ内にある「setup.exe」をダブルクリックで実行します。

4 [はい]をクリックします。



必要なプログラムが一時フォルダに展開され、ライセンス使用許諾契約書が表示されます。



Windows 7で実行する際にMicrosoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は、ライセンス使用許諾契約書が表示される前にインス

ツールされます。詳しくは、「Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は」(20ページ)をご覧ください。

5 ライセンス使用許諾契約書をお読みのうえ、「このライセンス契約書に同意します」のスイッチをクリックして「はい」に切り替えます。



ライセンスキーの入力欄が表示されます。

6 ライセンスキーを入力し、[次へ]をクリックします。



本ソフトウェアが起動されメニュー画面が表示されます。

ライセンスキーは、パッケージでご購入の場合は、ライセンスキーカードに記載されています。また、ダウンロードでご購入の場合は、ご購入時に登録されたメールアドレスにメールでお送りしています。

パソコンに接続されているハードディスクがスキャンされ、利用可能なハードディスクが表示されます。

「コピー元/コピー先ハードディスクを指定する」(32ページ)に進みます。

▶ Microsoft .NET Framework 4がインストールされていない場合は

Windows 7で実行する際に、パソコンにMicrosoft .NET Framework 4がインストールされていない場合、本ソフトウェアからダウンロード・インストールする画面が表示されます。ダウンロードにはインターネット接続が必要です。

1 [はい]をクリックします。



Microsoft .NET Framework 4 セットアップ画面が表示されます。

2 マイクロソフト ソフトウェア追加ライセンス条項をお読みのうえ、「同意する」にチェックを入れて[インストール]をクリックします。



インストールが開始されます。

インストールが完了すると、メッセージが表示されます。

3 [完了]をクリックします。



本ソフトウェアのライセンス使用許諾契約書が表示されます。

19ページの **5** 以降を実行して、本ソフトウェア（Windows 版）を起動します。

Windows PE版を起動する

Windows版で正しくコピーができなかった場合、本ソフトウェアでWindows PE版起動用USBメモリを作成し、USBメモリから起動してWindows PE版を使用します。

最初にWindows PE版起動用のUSBメモリを作成します。その後、作成したUSBメモリからWindows PE版を起動します



- 起動用USBメモリの作成方法については、「起動用USBメモリを作成する」(24ページ)をご覧ください。
- USBメモリからパソコンを起動するためには、BIOSでUSBメモリの起動順位を最優先に設定しておく必要があります。



使用前に準備・確認してください

- パソコンのBIOSがUSB起動 (USB boot) に設定されていないとUSBメモリからの起動ができません。BIOSの設定で、USBメモリからの起動ができるように設定してあることをご確認ください。BIOSの設定を確認・変更する方法は、パソコンの取扱説明書やパソコン メーカーのサポートにお問い合わせください。
- BIOSの設定で省電力モードが有効になっている場合、コピー中に画面表示が省電力モードで暗くなったり、ハードディスクが停まったりすることがあります。あらかじめ省電力モードを無効の設定にしてから作業を開始してください。
- 768MB以下のRAM(メモリ)が搭載されているパソコンで Windows PE版を起動した場合、本ソフトウェアが正しく実行できないことがあります。その場合、RAMを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
- Windows PEは、起動してから72時間後に予告なく再起動されます。
- Windows PE版では、USB 3.0の端子を使用できないことがあります。その場合は、新しいハードディスクやマウスなどは、USB 2.0端子に接続してください。
- Windows PE版では、32GBに満たないハードディスクを認識できません。32GB未満のハードディスクをコピー元/コピー先としてご利用になる場合は、Windows版をご使用ください。

1 パソコンの電源をオンにします。

2 起動用USBメモリを接続します。

Windows PE版が起動され、本ソフトウェアのライセンス使用許諾契約書が表示されます。

3 ライセンス使用許諾契約書をお読みのうえ、「このライセンス契約書に同意します」のスイッチをクリックして「はい」に切り替えます。



ライセンスキーの入力欄が表示されます。

4 ライセンスキーを入力し、[次へ]をクリックします。



本ソフトウェアが起動され、コピー元ハードディスクを選択する画面が表示されます。「コピー元/コピー先ハードディスクを指定する」(29ページ)に進みます。

なお、ライセンスキーは、パッケージでご購入の場合は、ライセンスキーカードに記載されています。また、ダウンロードでご購入の場合は、ご購入時に登録されたメールアドレスにメールでお送りしています。

起動用USBメモリを作成する

Windows PE版を使用してシステムディスクをコピーする場合には、本ソフトウェアのWindows PE版をUSBメモリから起動します。最初に、起動用のUSBメモリを作成します。

▶ 起動用USBメモリの作成手順



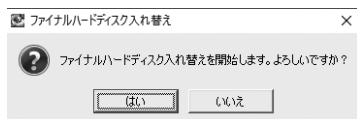
- 起動用として選択されたUSBメモリ内のデータはすべて削除されます。
- 起動用とするUSBメモリは700MB以上の容量が必要です。
- 起動用とするUSBメモリ以外の外部メディア（USBハードディスクやカードリーダーなど）は取り外しておいてください。
- 起動用のイメージを展開するために、ハードディスクに約1GB以上の空き容量が必要になります。

1 Windowsを起動します。

2 管理者権限のあるユーザーでログインします。

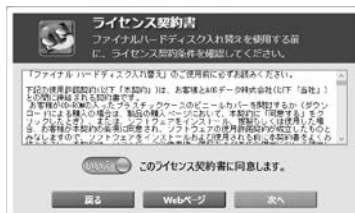
3 ダウンロードしたZIPファイルを解凍したフォルダ内にある「setup.exe」をダブルクリックで実行します。

4 [はい]をクリックします。



必要なプログラムが一時的フォルダに展開され、ライセンス使用許諾契約書が表示されます。

5 ライセンス使用許諾契約書をお読みのうえ、「このライセンス契約書に同意します。」のスイッチをクリックして「はい」に切り替えます。



ライセンスキーの入力欄が表示されます。

6 ライセンスキーを入力し、[次へ]をクリックします。



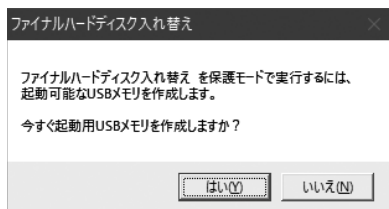
ライセンスキーは、パッケージでご購入の場合は、ライセンスキーカードに記載されています。また、ダウンロードでご購入の場合は、ご購入時に登録されたメールアドレスにメールでお送りしています。

7 [起動用 USB メモリを作成する] をクリックします。



- この画面で [Windowsから実行する] をクリックすると、Windows 版のプログラムが実行されます。

8 [はい]をクリックします。



9 [次へ]をクリックします。

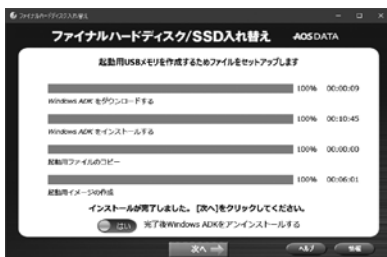


起動可能なUSBメモリを作成するために必要なWindows ADKをダウンロードしてインストールします。

この作業はすべて自動で行われます。完了までに1時間以上かかることもあります。



10 Windows ADKのダウンロードとインストールが完了したら、[次へ]をクリックします。



- [完了後Windows ADKをアンインストールする]を[はい]にすると。起動用USBメモリを作成した後に、この処理でインストールされたWindows ADKは、自動的にアンインストールされます。

11 コピー先のUSBメモリを接続します。

接続したUSBメモリの情報が表示されます。



12 [起動方式]のスイッチを任意で切り替えます。

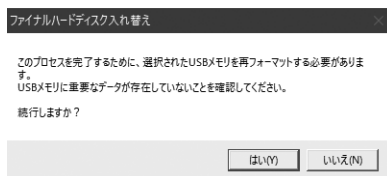
通常はご使用中のパソコンと適合する起動方式が自動的に選択されていますので、変更する必要はありません。

13 [次へ]をクリックします。

確認のメッセージが表示されます。

14 確認のメッセージが表示されます。

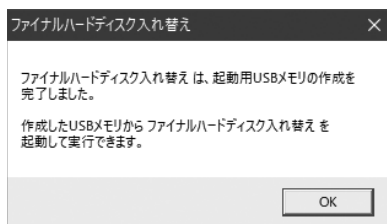
【はい】をクリックします。



コピーが開始されます。



15 「OK」をクリックします。



16 「終了」をクリックします。

作成したUSBメモリでWindows PE版を起動する方法については、「Windows PE版を起動する」(22ページ)をご覧ください。

コピー元/コピー先ハードディスクを指定する

コピー元およびコピー先のハードディスクを指定します。

▶ Windows 版でドライブを指定するときは



- コピー先ハードディスクのすべてのデータは削除されます。間違いのないように、十分に確認してください。



- Windows 版では、コピー元ハードディスクはシステムディスク(現在の起動ディスク)となり、変更できません。また、コピー先ハードディスクは、自動的に選択されます。コピー先ハードディスクは、ユーザーが変更することもできます。
- 事故を防ぐため、コピーに無関係なハードディスクや外部メディアは取り外しておくことをおすすめします。

表示されているコピー元/コピー先ハードディスクを確認します。



正しければ[次へ]をクリックしてください。

コピー先のハードディスクが複数接続されている場合は、ハードディスクのアイコンを選択してから[次へ]をクリックしてください。



- 画面に表示される使用容量には、リカバリーパーティションやWindowsが認識できないパーティションは含まれていません。このため、十分な容量のあるディスクを選択しても容量不足の警告メッセージが表示される場合があります。
- コピー先ハードディスクに指定できるハードディスクが検出されていない場合は、[キャンセル] をクリックして本ソフトウェアを終了してください。その後、コピー先ハードディスクとするハードディスクを接続しなおしてください。

▶ Windows PE版でドライブを指定するときは



- Windows PE版ではコピー元の選択も行います。コピー先ハードディスクのすべてのデータは削除されますので、コピー元とコピー先を間違えないように十分に確認してください。

1 コピー元ハードディスクのアイコンをクリックします。



2 [次へ]をクリックします。

3 コピー先ハードディスクのアイコンをクリックします。



4 [次へ]をクリックします。

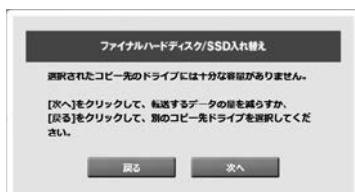


- コピー元またはコピー先ハードディスクが間違っていたときは、[戻る]をクリックして前の画面に戻り、選択しなおしてください。

除外するファイルやフォルダーを指定する

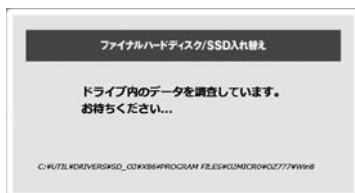
コピー先のハードディスクの容量が小さくてコピー元のデータをすべてコピーできない場合、特定のファイルやフォルダーをコピー対象から除外することができます。

1 次のメッセージが表示されたら[次へ]をクリックします。



このメッセージが表示されない場合、コピー先のハードディスクには十分な容量があります。「パーティションを変更する」(34ページ)に進みます。

2 除外可能なファイルやフォルダーを調査しています。



- 調査の結果、ファイルやフォルダーを除外しても必要な空き容量が確保できない場合、選択したコピー先のハードディスクにはコピーできません。[戻る]をクリックして別のハードディスクを選択してください。

3 コピーしないファイルやフォルダーを選択する画面が表示されます。ライブラリの各項目、または「その他のファイルとフォルダーを選択」をクリックして、コピー先のハードディスクに収まるように選択してください。



- 必要な除外データの容量は、画面右に表示されています(必要な除外データの項目)。この容量が0になるように選択してください。0未満にならないと[次へ]はクリックできません。
- ライブラリ内のマイドキュメントやマイピクチャなどの項目は、現在ログオン中のユーザーが対象です。Windows PE版を実行している場合は、ユーザー名がアルファベット順('Administrator'を除く)で最初となるユーザーが対象です。
- 不要なパーティションとは、通常のWindowsを起動する際に使用されないパーティション(ドライブ)を指し、主にリカバリー領域が該当します。「不要なパーティションを除外」を選択すると、コピー先のハードディスクでリカバリー領域を用いたWindowsのリカバリーを行うことができなくなります。なお、Windows PE版では「不要なパーティションを除外」は表示されません。

4 選択したら、[次へ]をクリックして「パーティションを変更する」(34ページ)に進みます。

パーティションを変更する

コピー先ハードディスクのパーティションを変更します。

コピー先ハードディスクでは、パーティション数はコピー元ハードディスクと同じに自動的に設定されます。

それぞれのパーティションのサイズは、コピー先ハードディスクの容量に応じて自動的に拡張(または縮小)されます。



- パーティション数を変更すると、コピーが失敗したり、コピー先のハードディスクから起動できなくなる場合があります。特に必要でないかぎり、本ソフトウェアで自動的に設定されたまままでのご使用をお勧めします。
- コピー先のハードディスクの容量が小さく、Cドライブにコピーするデータのほかに十分な空き容量を確保できない場合、Cドライブより後方のパーティションがコピーされないことがあります。

1 パーティションの追加、削除、またはサイズを変更します。



- パーティションのサイズの変更方法については「パーティションサイズを変更するときは」(35 ページ)、パーティションの削除方法については「パーティションを削除するときは」(36 ページ)、パーティションの作成方法については「新しいパーティションを作成するときは」(36 ページ)をご覧ください。
- [次へ] をクリックする前に、各パーティションのサイズと使用容量をご確認ください。パーティションに対してマウスオーバーすると、使用容量を確認できます。

2 [次へ]をクリックします。



- 「コピー先にサイズを自動的に合わせる」のスイッチを切り替えると、本ソフトウェアで自動的に設定された状態に戻ります。

▶パーティションサイズを変更するときは

青色で表示されているバーは位置を変更できます。このバー（スライドバー）をドラッグすると、パーティションのサイズを変更できます。



- Windowsで認識できないパーティションや、ドライブ文字のないパーティションのサイズは変更できません。
 - FAT16/FAT32のパーティションにスライドバーは表示されません。これらのパーティションのサイズを変更する場合は、パーティションを削除した後で新しいパーティションを作成してください。
- コピー先のCドライブに相当するパーティションは、コピー先のハードディスクで起動した際に動作に影響を与える可能性が高いため、少なくとも10GB以上の空き容量を確保することを推奨します。以下の例のように、空き容量に十分な余裕がない状態でコピーを行った場合、コピー先でWindowsが正しく動作しない可能性があります。また、一時ファイルの増減など何らかの要因によってCドライブの使用容量が変化して、空き容量が足りなくなり、コピーに失敗する可能性もあります。



▶パーティションを削除するときは

最終パーティションにマウスカーソルを合わせると **X** が表示されます。これをクリックすると、そのパーティションが削除されます。



- 削除できるのは最終パーティションのみです。途中にあるパーティションは削除できません。
- パーティションを削除すると、他のパーティションのサイズがわずかに変更される場合があります。これはスライドバーの位置のアライメントを行っているためです。

▶新しいパーティションを作成するときは

未割り当て領域がある場合には、そこに新しいパーティションを作成できます。



- 作成可能な最大パーティション数は、15です。
- コピー元に拡張パーティションがある場合、5つ以上のパーティションが作成できないことがあります。

1 未割り当て領域をクリックします。



2 ダイアログが表示されますので、ボリューム名を入力します。



初期状態では、未割り当て領域と同じサイズに設定されています。



- 未割り当て領域と同じサイズになるのはコピー元と同じ位置にあるパーティションのタイプがNTFSの場合に限ります。FAT16/FAT32の場合は、コピー元と同じサイズが初期状態となります。その他のパーティションのサイズは変更できないため、スライダーは表示されません。

3 希望のサイズになるまで、スライダーをドラッグします。

4 [OK]をクリックします。

BitLockerを設定する

現在実行中のWindowsがBitLockerを有効にできる状態の場合、コピー先のハードディスクをあらかじめBitLockerを用いて暗号化することができます。



- BitLockerを有効にできるWindowsのエディションは、Windows 7 Enterprise/Ultimate、Windows 8/8.1 Pro、およびWindows 10 Proです。
- Windows PE版を使用している場合、コピー元のハードディスクに搭載されているOSにかかわらず、BitLockerの設定はスキップされます。

BitLockerを有効にする場合、次の画面が表示されたら、「BitLocker全ディスク暗号化を有効にしますか?」のスイッチをクリックし、[はい]に切り替えます。Windowsのバージョンによって、表示される設定項目が異なります。

▶ Windows 8/8.1 Pro、およびWindows 10 Proの場合



スイッチを切り替え、パスワードを8~20文字で指定します。パスワードには「 ` および半角スペース」は使用できません。ここで指定したパスワードは、コピー先のハードディスクで起動する際に使用します。

「再入力」欄には、同じパスワードを入力してください。



任意で、暗号化レベル、および回復キーをUSBメモリなどに保存します。暗号化レベルは、どちらも強度なものとなっております。[AES-256]を選択した場合、暗号化処理に時間がかかることがあります。

パスワードを忘れた場合に備えて、**回復キーを保存すること**を推奨します。回復キーは、パソコンが新しいハードディスクから起動できない状態になることに備えて、USBメモリなどのリムーバブルメディアに保存することをおすすめします。「参照」をクリックして、USBメモリなどのリムーバブルメディアを指定して[OK]をクリックします。



パスワード、暗号化レベル、および回復キーの保存先の設定が完了したら、「次へ」ボタンをクリックして進みます。

▶ Windows 7 Enterprise/Ultimateの場合



スイッチを切り替えて、暗号化レベルおよび回復キーの保存先の指定を行います。暗号化レベルは、どちらも強度なものとなっております。[AES-256]を選択した場合、暗号化処理に時間がかかることがあります。



回復キーの保存は必ず行ってください。

回復キーは、パソコンが新しいハードディスクから起動できない状態になることに備えて、USBメモリなどのリムーバブルメディアに保存することをおすすめします。

暗号化レベルおよび回復キーの保存先の設定が完了したら、「次へ」ボタンをクリックして進みます。

コピーを実行する

コピー元ハードディスク（システムディスク）からコピー先ハードディスクへ実際にコピーします。



- コピーを開始すると、コピー先ハードディスクの内容はすべて削除されます。間違いのないことを十分に確認してください。

1 「コピー先のハードディスクの内容を確認済み」のスイッチをクリックして「はい」にします。



2 「次へ」をクリックします。

コピーが開始されます。コピーの進捗状況は画面に表示されます。

コピーが終了すると、メッセージが表示されます。





- BitLocker暗号化を有効にして回復キーを保存した場合、「回復キーを見る」ボタンが表示されます。

このボタンをクリックすると、回復キーが保存されているファイルが開き、回復キーを確認したり、印刷することができます。

お使いのパソコン以外に、保存した回復キーを見る手段がない場合は、このボタンを押して回復キーのファイルを開き、印刷することを強く推奨します。

回復キーを見る

閉じる

- 回復キーを保存しなかった場合は、このボタンは表示されません。

※回復キーファイルに保存されている各回復キーの先頭にあるドライブ文字は、コピーした時点でのドライブ文字であるため、コピー先で起動する場合はドライブ文字が置き換わることにご注意ください。例えば、次のように回復キーが保存されている場合は、現在のFドライブがコピー先ではCドライブとなりますので、このキーを起動時に入力します。

F -> 111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111

G -> 222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222

- コピーが完了すると、デスクトップに次のフォルダーが作成されます。



このフォルダーには、本ソフトウェアのログが含まれています。弊社サポートから依頼があった場合に使用します。

4 パソコンをシャットダウンします。

5 コピー元ハードディスクとコピー先ハードディスクを交換します。

交換方法については、「ハードディスク入れ替え作業の概要」(13ページ)を参考にしてください。



- コピー先ハードディスクをすぐに使用しない場合でも、コピー先ハードディスクから起動できることを必ずご確認ください。

新しいハードディスクから起動する

コピー作業が完了しましたら、パソコンの電源をオフにし、コピー元ハードディスクをパソコンから取り外し、コピー先ハードディスクをコピー元ハードディスクと同じ場所に取り付けます。



- 交換方法については、「ハードディスク入れ替え作業の概要」を参考にしてください。

コピー先ハードディスクを取り付け、パソコン本体を元の状態に組み立てた後でパソコンの電源を投入し、Windowsが立ち上がることを確認します。



- Windowsが立ち上がらない場合は、うまくいかないときは [をご覧ください](#)。
- Windowsの起動後、新しいハードディスクのドライバーのインストールが自動的に開始されることがあります。

BitLockerによるドライブ暗号化を有効にした場合

BitLockerを設定する で、BitLockerによるドライブ暗号化を有効にした場合、コピー先のハードディスクから起動する際に、設定したパスワードまたは保存した回復キーを入力します。

Windows 8/8.1/10、およびWindows 7の場合で、操作方法が異なります。

▶ Windows 8/8.1/10

BitLockerを有効にしてコピーを行った場合は、コピー先のハードディスクで起動すると、次のような画面が表示されます。

F -> 111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111

G -> 222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222

▶ Windows 7

BitLockerを有効にしてコピーを行った場合は、コピー先のハードディスクで起動すると、次のような画面が表示されます。

ここで、USBメモリなどに保存した回復キー(48桁)を入力します。



※回復キーファイルに保存されている各回復キーの先頭にあるドライブ文字は、コピーした時点でのドライブ文字であるため、コピー先で起動する場合はドライブ文字が置き換わることにご注意ください。例えば、次のように回復キーが保存されている場合は、Fドライブがコピー先ではCドライブとなりますので、このキーを入力します。

F -> 111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111-111111

G -> 222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222-222222

TIPS: コピー先ハードディスクのWindowsでBitLockerを解除する

BitLockerによるドライブの暗号化が不要になった際は、次の手順でコピー先ドライブのBitLocker暗号化を解除することができます。

BitLocker暗号化を解除すると、起動時にパスワードおよび回復キーを入力する操作をスキップし、直接Windowsを起動できるようになりますが、パソコンのセキュリティレベルが低下します。

1 コピー先ハードディスクでWindowsを起動します。

ここでは、設定したパスワードまたは保存した回復キーを入力が必要です。

2 管理者権限のあるユーザーでログオンします。

3 コントロールパネルを開きます。

Windows 7の場合は、[スタート]メニューから「コントロールパネル」をクリックします。

Windows 8の場合は、デスクトップを開き、チャームから「設定」>「コントロールパネル」の順にクリックします。

Windows 8.1/10の場合は、[スタート]ボタンを右クリックし、表示されたメニューから「コントロールパネル」をクリックします。

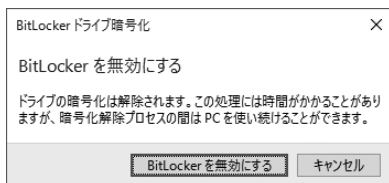
4 [コントロールパネルの検索]欄に、「BitLocker」を入力し、「BitLockerドライブ暗号化」をクリックします。



5 [BitLockerを無効にする]をクリックします。



6 [BitLockerを無効にする]ボタンをクリックします。



7 暗号化の解除が開始されます。



暗号化の解除には数分から数十分かかることがあります。

Advanced formatについて

▶ Advanced Formatとは

Advanced Formatとは、従来の512バイトのセクターサイズを4096バイトに拡張したものです。これにより、ハードディスク内の無用なセクターギャップを減らし、ECC（誤り訂正符号）に使用される領域を小さくできます。一般的には、ハードディスク全体の10%程度の容量を節約することができます。

Advanced Formatでは、ハードディスク上の物理的セクターサイズは4096バイトとして扱います。さらに、従来のフォーマットとの互換性を維持するため、OSやデバイスコントローラから512バイト/セクターとしてアクセスできるようにエミュレーションされます。

▶ Windows XPでの問題点

Advanced Formatの512バイトとしてアクセスできるようなエミュレーションは、すべての条件で512バイト/セクターと同等に扱えるとは限りません。

Windows XPでは、Advanced Formatのハードディスクを使用すると互換性の問題が発生し、多くの場合、起動できないか、著しくパフォーマンスが低下します。これは、Windows XPでのシステムドライブのパーティション開始セクター位置は、Windows Vista/7/8(8.1)/10とは異なります。そのため、Advanced Formatのハードディスクとそうでないハードディスクの間にドライブ開始セクター位置の誤差が生じるためです。

そのため、本ソフトウェアでは、Windows XPのシステムディスクをAdvanced Formatのハードディスクへコピーすることはサポート対象外としています。

なお、各ハードディスクの製造元が提供するパーティションアライメントツール(PAT)を使用するとWindows XPでAdvanced Formatのハードディスクを扱えるようになりますが、製造元によってその仕組みが異なるため、弊社ではサポートできません。

Windows Vista、Windows 7、Windows 8(8.1)、およびWindows 10では、ドライブ開始セクター位置とAdvanced Formatの問題は解決されており、そのまま使用することができます。

▶ Advanced Formatの識別方法

ディスク本体に次のようなロゴがあれば Advanced Format と識別できます。



しかし、このロゴがないハードディスクで Advanced Format が採用されているケースも見られます。

確実に識別するためには、次の操作を行ってください。

- 1 Windows 7 の場合は、Windows スタートメニューの「プログラムとファイルの検索」欄に `cmd.exe` と入力 (Enter キーは押しません) して表示された `cmd.exe` を右クリックして「管理者として実行」をクリックします。



Windows 8 の場合はスタート画面から右クリック > すべてのアプリ でのすべてのアプリケーションを表示させます。アプリ一覧の右方向にある「コマンドプロンプト」を右クリックして「管理者として実行」をクリックします。



Windows 8.1/10の場合は、画面左下のスタートボタンを右クリック>「コマンドプロンプト(管理者)」をクリックします。



2 ユーザーアカウント制御ウィンドウが表示されたら、「はい」をクリックします。

3 次のコマンドを入力してEnterキーを押します。

```
fsutil fsinfo ntfsinfo %SYSTEMDRIVE%
```

4 ドライブ情報が表示されます

「物理セクターあたりのバイト数」を確認し、「512」となっていれば Advanced Format ではなく、「4096」となっていれば Advanced Format です。

GUID パーティションテーブル(GPT)について

▶ GUIDパーティションテーブル(GPT)とは

GUIDパーティションテーブルを採用したハードディスク(以下、GPTディスク)は、従来のマスター ブートレコーダー(MBR)にかわるもので、パーティションをGUID (Globally Unique Identifier) で管理しています。MBRを採用したハードディスクでは、通常2TBまでしか認識できませんが、GPTディスクでは8ZB (=8,000,000,000TB)まで扱うことができます。

▶ GPTディスクの起動

GPTディスクは、従来のBIOSを採用したマザーボードでは起動ディスクとして扱えません。EFI (Extensible Firmware Interface) を採用したマザーボードが必要となります。

本ソフトウェアはGPTディスクの変換は行わないため、コピー元のハードディスクが既にGPTディスクで、Windowsを正しく起動して運用しているのであれば、ご利用のパソコンがEFIを採用しているかどうかを気にする必要はありません。本ソフトウェアでコピーを行ったコピー先のハードディスクは、起動可能なGPTディスクとなります。

Windows の場合、GPTディスクから起動できるのは64bit版のWindows Vista(SP1以上)、Windows 7/8(8.1)/10に限られます。

なお、データドライブとして扱う場合(起動ディスクとして使用しない)は、64bit版Windows XP、32bit版Windows Vista/7/8(8.1)/10でも可能です。32bit版Windows XPでは、GPTディスクにアクセスできません。

うまくいかないときは

問 題	原 因	解決方法
システムドライブのスクランが非常に遅い。	セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなどが動作している。	本ソフトウェアを実行する前に、一時的にそれらのソフトウェアを無効にしてください。
コピー先ハードディスクを検出できない。	コピー先ハードディスクが正しく接続されていない。	正しく接続しなおしてください。
	コピー先ハードディスクの電源が入っていない。	ディスクドライブに電源をオンにします。
	マスター/スレーブの設定が間違っている (IDEの場合)。	ジャンパーピンなどで、マスター/スレーブを正しく設定してください。
	ソフトウェアRAIDで構成されるハードディスクが接続されている。	ソフトウェアRAIDで構成されるハードディスクを取り外してください。
	SATAモードが「IRRT」に設定されている。	BIOS画面で、SATAモードを「AHCI」または「IDE (Compatible)」に変更してください。
PCMCIAドライブ用のPCMCIAドライブがインストールできない。	PCMCIAカードデバイスが確実に装着されていない。	パソコンの電源を切り、すべてのPCMCIAカードデバイス取り外します。パソコンの電源を入れなおし、ドライブを再度差し込みます。
ハードディスク入れ替え後に、「ハードディスクアクティブプロテクションシステムLogger Moduleでエラー」が表示される。	入れ替えたハードディスクが“ThinkPad HDD APS Logging Service”機能に対応していない。	コントロールパネルにある「管理ツール」の「サービス」から“ThinkPad HDD APS Logging Service”を無効にしてください。

問 題	原 因	解決方法
ハードディスク入れ替え後に、「指定されたモジュールが見つかりません」が表示される。	ハードディスク入れ替えを実行する際に、Internet Explorerが実行されたままになっていた。	既存のハードディスクのC:¥Windows¥Downloaded Program Filesにあるファイルのうち、入れ替え先のハードディスクにコピーされていないファイルを手動でコピーしてください。
ハードディスク入れ替え後に、正しく動作しなくなったアプリケーションがあります。	ハードディスク入れ替えを実行する際に、セキュリティソフトやデスクトップ検索ソフトなどがタスクトレイに常駐したままになっていた場合に発生します。	コピーを始める前に一時的にそれらのソフトウェアを無効にしてください。また、本ソフトウェア以外は終了させてから、再度実行してください。または、Windows PE版を使用してください。 以上の方法でも改善されない場合は、アプリケーションを修復セットアップまたは再インストールしてください。
	Windows Live メールが正しく動作しない場合、インテル®ラピッドストレージ テクノロジー (IRST) がインストールされていない。	インテル®ラピッドストレージ テクノロジー (IRST) をインストールしてください。 http://www.intel.com/p/ja_JP/support/highlights/sftwr-prod/imsm
ハードディスク入れ替え後に、ごみ箱が使えなくなった。	コピー元ハードディスクにおいて、ごみ箱内の一部セクターに異常があった	次の手順でごみ箱を初期化してください。 1. エクスプローラの「ツール」メニューから「フォルダオプション」(Windows Vista/7の場合は、「整理」メニューから「フォルダと検索のオプション」、Windows 8/10の場合は「表示」メニューから「オプション」) をクリックし、表示タブ内の「保護されたオペレーティングシステムファイルを表示しない」のチェックを外してください。 この設定は、問題が解決したら元に戻してください。

問 題	原 因	解決方法
		<p>2. エクスプローラで、C:ドライブのルートにある [Recycled] または [Recycler] フォルダの名前を変更します(たとえば、「AAA」など)。Windows Vista/7/8/10 の場合は、[\$Recycle.bin] フォルダです。ユーザーアカウント制御画面が表示されたら、[続行] または [はい] をクリックしてください。</p> <p>3. 名前を変更したフォルダを削除します。</p> <p>4. パソコンを再起動してください。ごみ箱が初期化され、使用が可能な状態に戻ります。</p>
ハードディスク入れ替え後に、Windowsのライセンスが無効になる	本ソフトウェアの実行時にインターネットに接続していた、または一部のファイルがロックされていて、コピーに失敗した	Windows インストールディスクまたは本体に付属している、ライセンスシート記載のプロダクトキーを入力して再認証を行ってください。
入れ替え後のディスクで起動しない	<p>マスター/スレーブの設定が間違っている(IDEの場合)。</p> <p>Windows アップデートが行われている最中にコピーした。</p> <p>Advanced Format のハードディスクに Windows XP のシステムドライブをコピーしようとした。</p>	<p>ジャンパーピンを確認してください。コピー先をスレーブとして接続してコピーした場合は、コピー先ハードディスクディスクで起動する際に、必ず設定をマスターに変更してください。ジャンパーピンの設定方法は、通常、ハードディスク本体または取扱説明書に記載されています。</p> <p>Windows アップデート後にインターネット接続を止めて、再度コピーしなおしてください。</p> <p>新しいハードディスクのフォーマットを確認してください。</p>

問 題	原 因	解決方法
入れ替え後のディスクで起動しない	コピー元ハードディスクに不良セクターが存在する。	Windowsの「チェックディスク」などでエラーチェックを行って正常な状態にしてから、再度コピーしなおしてください。
	本ソフトウェアが対応していないパソコン、OS、またはハードディスクを使用している。	6～8ページをご覧ください。本ソフトウェアが対応しているパソコン、OS、およびハードディスクで使用してください。
	起動順序が間違っている。	BIOS (EFI) 画面で、起動順序をご確認ください。
	コピー先ハードディスクに対応するシステムコンポーネントが不足している。	コピー元のハードディスクでWindowsを起動して、インテル®ラピッドストレージテクノロジー (IRST) をインストールしてください。 http://www.intel.com/p/ja_JP/support/highlights/sftwr-prod/imsm インストール後、再度ファイナルハードディスク入れ替えを実行してコピーを行ってください。
Windows PE版で実行しているとき、ドライブのフォーマットに失敗する	Windows PE版がハードディスク内の拡張パーティションを正しく認識できない。	Windows版を実行してください。
Windows PE版が正しく起動しない	パソコンのメインメモリが768MBよりも少ない。	メインメモリを768MB以上に増設するか、Windows版をご使用ください。
起動用USBメモリを作成する際、Windows ADKのインストールが完了しない	古いバージョンのWindows ADKがインストールされている	古いバージョンのWindows ADKをアンインストールしてから、起動用USBメモリを作成してください。

本製品の使用方法について

本ソフトウェアの使用には、下記の「ライセンス使用許諾契約書」への同意が必要です。

「ファイナル ハードディスク入れ替え」のご使用前に必ずお読みください。

下記の使用許諾契約(以下「本契約」)は、お客様とAOSデータ株式会社(以下「当社」)との間に締結される契約書です。

お客様がCD-ROMの入ったプラスチックケースのビニールカバーを開封するか(ダウンロードによる購入の場合は、製品の購入ページにおいて、本契約に「同意する」をクリックしたとき)、または、ソフトウェアをインストール、複製もしくは使用した場合、お客様が本契約の条項に同意され、ソフトウェアの使用許諾契約が成立したものとみなしますので、ソフトウェアをインストールおよび使用される前に本契約書をよくお読み下さい。本契約は、ソフトウェアの使用権、保証および責任の限定について規定しています。

お客様が本契約に同意されない場合、本契約の対象となるソフトウェアのインストールおよび使用は許可されません。お客様が本契約に同意されない場合、(1)ソフトウェアを未使用のまま、(2)お買い上げから60日以内に、(3)ご購入を証明するものを添えて、(4)お買い上げ店に購入商品を全てお返し下さい。その場合は、購入代金を返金いたします。(ダウンロードによる購入の場合には、本契約に「同意しない」をクリックして下さい。購入手続きはキャンセルされます。また、ダウンロード販売という性質上、同意のうえでご購入された製品の返品・返却は一切出来ませんのでご注意ください。)

使用許諾契約

1 使用権の許諾

本契約は使用権の許諾についての契約です。当社はお客様に対し、「ファイナル ハードディスク入れ替え」(以下「本ソフトウェア」)を本契約記載の条件に従い使用する権利を許諾します。本契約においてお客様に明示的に許諾されない権利は、当社に留保されます。

2 著作権等

本ソフトウェアは、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者の知的財産であり、著作権法、特許法、その他の国内法および国際条約により保護されています。本ソフトウェアおよびその複製物の全てならびにユーザーズマニュアルに関する著作権、特許権、商標権その他の全ての知的財産権は、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者に帰属します。本ソフトウェアにMicrosoft社のWindows PEまたは第三者のプログラムが含まれる場合、お客様は、それらのプログラムの使用許諾条件にも従うものとします。

3 使用権の範囲と制限

1. 当社はお客様に対し、お客様が自己所有するコンピュータ(お客様が自己使用するリースまたはレンタル物件を含む)1台において本ソフトウェアをインストールして使用する非独占的、再許諾不可能で、かつ譲渡不可能な権利を許諾します。本ソフトウェアを2台以上のコンピュ

タにインストールして使用する場合は、追加で1台につき1ライセンスが必要となります。お客様は、当社の書面による事前の承諾を得ることなく、本ソフトウェアをお客様の提供するサービス(有償無償を問わず、営利目的または付加価値サービスとして第三者に提供されるサービスを含む)の一環として使用することはできません。

2. 本契約で許諾された使用方法を逸脱した本ソフトウェアの使用は、全て本契約の違反になります。使用権の範囲を超えた使用について、お客様は、すみやかに当社に対して報告しなければなりません。お客様と当社は、当該使用権の範囲を超えた逸脱使用分について調整し、合意の形成をはかるものとします。逸脱使用分についての合意がなされるか、逸脱使用分の使用が中止されるまで、お客様は当社に対し、当該逸脱使用分について当社の価格表に基づいて算定される金額を補償しなければなりません。逸脱使用分の補償額は4年定額法減価償却の考えに基づいて算定されるものとします。使用権の範囲を超えた使用について当社に対する報告がなされなかった場合、お客様は当社に対し、当社の価格表に基づいて算定される逸脱使用分の使用料の3倍に相当する金額を支払うものとします。

3. お客様は、バックアップ目的のみ本ソフトウェアの複製を作成することができます。ただし、複製された物には原画にある商標、著作権等の表示が全て含まれていなければならないものとし、お客様自身が複製を保持しなければならないものとし、

4. お客様は、本ソフトウェア、ユーザーズマニュアルおよび本ソフトウェアのシリアル番号(以下「ライセンスキー」)を貸与、販売、譲渡または公共の場へ転送することはできないものとし、また、本ソフトウェア、ユーザーズマニュアルおよびライセンスキーに担保権を設定したり、本ソフトウェアの再使用許諾を行ったりすることはできないものとし、

5. お客様は、本ソフトウェアをいかなる理由によっても逆アセンブル、逆コンパイル、リバースエンジニアリング、カスタマイズ、または改造できないものとし、お客様による改造等の行為に起因して何らかの障害が発生した場合、当社は、当該損害に関して一切の責任を負わないものとし、

4 サポートサービス

1. 当社は、当社が定める手続に従ってユーザ登録を行ったお客様に対し、当該ユーザ登録の日から1年を経過する日までを有効期間として、電話またはメールによるサポートサービスを提供いたします。ただし、インターネット接続環境またはメールアドレスをお持ちでないお客様においては、サポートサービスのうち一部が有料となります。

2. お客様は、ユーザ登録の内容に変更が生じた際は、当社に対し遅滞なく届出を行うものとします。

3. サポートサービスの提供に関する当社の義務は、本条第1項記載の内容に関する合理的な努力を行うことに限られるものとします。

4. 当社は、お客様が以下のいずれかに該当する場合は、サ

ポートサービスを提供する義務を負わないものとします。
(a) 当社が定める手続に従ったユーザ登録を行っていないお客様

(b) 本条第2項所定の変更の届出を行っていないお客様または当該変更の届出に不備があるお客様

(c) サポートサービスの有効期間内にないお客様

(d) 本ソフトウェアを、第1条記載の日本語バージョン以外のオペレーティングシステムとともに使用しているお客様

(e) 本ソフトウェアに関する内容でない質問のあるお客様

5. 当社は、以下の場合、お客様へ事前の通知を行うことなくサポートサービスの提供を停止できるものとします。

(a) システムの緊急保守を行うとき

(b) 火災等の不可抗力により、システムの運用が困難または不可能になったとき

(c) 上記以外の緊急事態により、当社がシステムを停止する必要があると判断するとき

6. お客様は、サポートサービスの有効期間が終了する日までに当社が定める手続に従い、当社と別途サポートサービス契約を締結することによって、引き続きサポートサービスの提供を受けることができます。なお、サポートサービス契約の締結には別途費用が必要となります。

7. 前各項にかかわらず、当社が本ソフトウェアのサポートサービスの提供を終了・中止した場合、その後、当社はお客様に対し、サポートサービスを提供する義務を負わないものとします。

5 保証

1. 当社は、購入日から60日を超えない期間に限り、本ソフトウェアの媒体（以下「メディア」）に物理的な欠陥がないこと、および本ソフトウェアが通常の使用環境においてユーザーズマニュアル等に記載の通りに動作することを保証します。メディアに物理的な欠陥があった場合、本ソフトウェアに領収書等の購入日を証明するものを添えてお買い上げになった販売店までお戻し下さい。当該メディアを無料で交換いたします。その場合、交換後のメディアには、交換前のメディアに適用されるべき保証期間が適用されるものとします。なお、ダウンロードによる購入の場合には、本項規定の適用はありません。

2. 前項の保証を除き、当社は、本ソフトウェアがお客様の要望に合致すること、および本ソフトウェアの動作に問題がないことを保証いたしません。本ソフトウェアは現状有姿のままお客様に提供され、本ソフトウェア、ユーザーズマニュアルその他の本契約に基づき提供されるサービスについて、当社および本ソフトウェアの使用許諾権者は、一切の保証を行いません。当社および本ソフトウェアの使用許諾権者は、本ソフトウェアの商品性、特定の目的への適合性、権利、および権利侵害について何ら保証いたしません。

3. 第4条第1項および第2項に記載されるユーザ登録もしくはユーザ登録変更の届出がなされない場合、またはその内容に不備がある場合、当社からお客様への通知、郵便その他のご連絡の不達により生じる不利益および損害につきましては、お客様の責任とさせていただきます。

4. お客様によるソフトウェアプログラム（本ソフトウェアを含むがこれに限らない）の選択、導入、使用および使用結果につきましては、お客様の責任とさせていただきます。本ソフトウェアもしくはユーザーズマニュアルの使用の結果、またはサポートサービスを受けたこと、もしくは第4

条第4項および第5項によりサポートサービスの提供を受けられないことに起因してお客様または第三者に生じた間接的損害、特別損害、偶発的損害、付随的損害、結果的損害および逸失利益に関して、当社は一切の責任を負いません。

6 責任の限定

お客様の損害に対して、当社は、お客様の直接損害に対してのみ賠償責任を負うものとし、当社が負担する賠償責任の総額は、お客様が本ソフトウェアに対して支払われた対価の額を上限とします。理由の如何を問わず、当社は、間接損害、特別損害、偶発的損害、付随的損害、結果損害（データの喪失を含むが、これに限られません）および逸失利益に関して賠償責任を負いません。

7 契約の解除

1. お客様は、本ソフトウェアとその複製物全てを破壊することにより本契約を終了させることができます。この場合、本契約に基づきお客様が支払われた一切の対価は返還されません。

2. 本契約に関してお客様に違反があった場合、当社がお客様に対し、文書をもって契約違反の治癒を求める通知を行った場合、通知日から30日の間に当該違反が治癒されなかったときは、当社は、本契約を終了させることができます。本契約が終了した場合、お客様は、本ソフトウェアを使用することはできず、本ソフトウェアとその複製物全てを破壊するものとします。

8 守秘義務

1. お客様は、本契約記載の内容、および本契約に関連して知り得た情報（本ソフトウェアのライセンスキー、サポートサービスに関連する電話番号、ファックス番号、メールアドレス、URL、ID、パスワードおよびサポートサービスの一端としてコンピュータネットワークを介して提供される情報内容を含む）につき、当社の書面による承諾を得ることなく第三者に開示、漏洩しないものとし、かつ、本契約における義務の履行または権利の行使に必要な場合を除き、方法を問わず利用しないものとします。ただし、国家機関の命令による開示等正当な事由に基づき開示する場合は、この限りではありません。ただし、その場合には、お客様は当社に対し、速やかに事前の通知を行うものとします。

2. 前項にかかわらず、以下の各号に定める情報については前項の規定を適用しないものとします。

- 当社の機密情報を使用または参照することなく独自に開発した情報
- 開示を受けた時に既に知っていたことを証明できる情報
- 開示を受けた後、自己の責によらず公知となった情報
- 第三者から守秘義務を負わず適法に入手した情報
- 書面により開示を許諾された情報
- 法律に基づき開示が求められる情報

3. 前各項の規定は、本契約が解除、期間満了その他の事由によって終了したときであっても、なおその効力を有するものとします。

9 アップデート

当社は、お客様に対し、いつでも無料で、本ソフトウェアのアップデートプログラムの提供をできるものとします。お客様がアップデートプログラムを受領した場合、当該アップ

データプログラムは本ソフトウェアの一部として本契約に従うものとします（ただし、本契約よりアップデートプログラムに付属する契約が優先する場合は除く）。

10 輸出

本ソフトウェアおよび付属文書は、日本、米国その他の国の輸出入の規制を受けることがあります。お客様は、本ソフトウェアを輸出、再輸出または輸入する場合、適用を受ける全ての法律等による規制を遵守し、お客様の責任においてそのために必要な許可を得るものとします。

11 一般条項

1. 本契約は、日本国法に準拠するものとします。本契約に起因する紛争の解決については、東京地方裁判所を第一審の専属的合意管轄裁判所とします。本契約の一部の規定が無効と判断された場合、その規定は削除するものとします。
2. 当社は、お客様へ事前の告知を行うことなく本契約の内容、サポートサービスの内容その他の告知内容を変更できるものとし、変更後の内容を当社webサイトに掲示するものとします。当該変更がなされた場合、従前の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容は無効となり、変更後の本契約の内容、サポートサービスの内容および告知内容が適用されるものとします。

12 システム要件

本ソフトウェアの動作には、Windows 7、Windows 8.1、およびWindows 10のオペレーティングシステムの日本語版が必要です。これらのオペレーティングシステムを使用しなかった場合、本契約およびユーザーズマニュアル等に記載されたアプリケーションの内容は実現されません。なお、ネットワークを介して本プログラムを制御することはできません。

13 Windows PEについて

本装置または本ソフトウェアで使用するMicrosoft® Windows Preinstallation Environment (Windows PE) は、起動、診断、セットアップ、復元、インストール、設定、テストまたは障害回復を目的とする場合にのみ使用することができません。

注意：本ソフトウェアには、セキュリティ機能が含まれており、72時間の連続使用後、お客様への事前の通知なしに、お客様のシステムを再起動する場合があります。

2019 AOS DATA, Inc. All rights reserved worldwide.

索引

アルファベット

Advanced Format	7, 49
BitLocker	38, 44
IDE	15
SCSI	15
SSD	7
USBケーブル	13
Windows PE 版の起動	22
Windows PE 版	2, 6, 10, 12, 16, 24, 31
Windows 版の起動	18
Windows 版	16, 22, 24, 29

あ

インタフェース	7
---------	---

か

隠しパーティション	2
起動用USBメモリ	16
コピー先ハードディスク	30
コピーの実行	41
コピー元ハードディスク	30

さ

システムディスク	2
診断用パーティション	2
外付け用ハードディスクケース	13

た

対応ハードディスク	7
ディザスタリカバリ	2
デスクトップパソコンのハードディスク 入れ替え	14

な

ノートパソコンのハードディスク入れ替え	13
---------------------	----

は

パーティションサイズの変更	35
パーティションの削除	36
パーティションの新規作成	36
非対応ハードディスクおよびパソコン本体	8

ま

マスター/スレーブ	15
-----------	----

ら

リカバリ用パーティション	2
--------------	---

技術サポート情報

弊社への技術的なお問い合わせは、以下に示すように、ウェブサイト、電子メール、またはチャットをご利用いただけます。

▶ よくある質問と回答集

本ソフトウェアのよくある質問と回答集 (FAQ) は、オンラインで利用することができます。

最新情報は、次のWebサイトをご覧ください。

<https://faq.aosdata.co.jp/transfer2/>

▶ オンラインユーザー登録

ユーザー登録は、技術サポートを受けたり、製品の最新版情報を受け取るなどのために必要です。

<https://www.aosdata.co.jp/userreg/>

▶ アップデートプログラム

最新のアップデートプログラムがある場合は、次のサイトにて提供しています。最新のプログラムを入手後、本ソフトウェアをご使用ください。

<https://www.aosdata.co.jp/download/dskire/>

▶技術サポート

ご購入いただいたソフトウェアの操作上のお問合せや技術的なご質問は、AOS データ技術サポートでお受けします。専門スタッフが問題解決のお手伝いいたします。

なお、サポートをお受けになる場合は、下記事項を確認のうえでご連絡ください。

- (1) 電源が正しく接続されており、ハードディスクおよびコネクタ類が正しく接続されていますか？
- (2) ご使用のパソコンは、必要なシステム条件(6ページ)を満たしていますか？
- (3) パソコンのOS、ドライブ構成、容量、周辺機器の接続状態
- (4) 障害発生に至るまでの操作

Eメール: irekae@aos.com

オンラインチャット: <https://faq.aosdata.co.jp/#inquiry-chat>

リアルタイムお問い合わせシステム「ライブサポート」で承ります

(受付: 祝祭日を除く月曜～金曜 10:30～12:00、13:00～17:00)

AOS

AOSデータ株式会社

<https://finaldata.jp>

Eメール : irekae@aos.com